
ぞうきんの手

ぱくどら

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ぞうきんの手

【Nコード】

N9826D

【作者名】

ぱくどら

【あらすじ】

コンプレックスって誰にでもあると思うのですが、私のコンプレックスを文章にぶつけてみました。多汗症の方は私の気持ちがわかる…のかな。

人それぞれにコンプレックスがあると思います。もし、ないなあと思う人がいるなら、羨ましい限りです。

：私もコンプレックスなんてないなあと思いたいです。

多汗症っていう言葉をご存知でしょうか。簡単に言えば、ふつうの人以上に汗をかく症状のことです。
なんだ、ただの汗っかきじゃないかと思えます。私も実際汗っかきです。ですが、どうも違うんです。

暑いなあと感じないのに、手足腋に汗をかきます。なぜでしょう。普通にパソコンをいじっているときでさえ手の平に汗が出てきます。緊張した場面に遭遇したときはひどいものです。紙にメモをしていると、その紙が汗のせいでふにゃふにゃになってしまうほどです。アルバイト先でもそうです。接客のアルバイトをしていたのですが、常時手が湿っている状態でした。

私はこの手が大嫌いです。

漫画を読んでいても、手に汗を握り、夏になりサンダルを履こうにも汗で滑って履けない。電車、バスで立っているときなにかに捕まれば手の跡が残る始末。

まさしく、ぞうきんの手です。

ぞうきんは水分が多かったら絞れますが、残念ながら手ですので絞れない。

今、私のコンプレックスはこの汗です。

今でも手が憎いほど嫌いです。

こんな私ですが、前に一度、この手のことをカミングアウトしたことがあります。高校のクラブのときのことです。

クラブは弓道で、弓の握りの部分がイヤでも毎日触らなければならず、しだいにその握りが水分を帯びていきました。

握りは水分があるせいで滑り、なかなかうまくいきませんでした。そのことをクラブの先輩同級生に相談をしました。

内心、ものすごく嫌でした。

手に汗が異常に出ると知って、どんな反応をするのだろう。軽蔑した目で見られるのだろうか、などと考えていました。しかし、皆いたって普通の反応をしました。

そして、ある一人のクラブの同級生がこう言いました。

『…〇〇の手って、正直だね。…別に気にしなくてもいいんじゃない？…あ、汗かいてきたね。意識した？』

きつと言った本人は覚えていないでしょう。でも私は今でも嬉しくてたまりません。

手に汗をかくことを、正直、と表現した友人のことが今でもすごいと思います。その言葉は今でも私を支えています。

病院に行っていないので、本当に私が多汗症なのかはわかりませんが、症状や普段の生活を見る限りきつと多汗症だと思います。今、まったく自分に自信が持てない状況です。自分では手のせいになっているのですが、もしかすると自分でそう思っているだけかもしれません。

こんな風に文章にしたのは、自分の中で整理をつけたいからです。そして、多汗症で悩んでいる人がいるということをわかってほしいからです。

多汗症で悩んでいる方は稀にいらっしゃるそうです。∴私の周りにはいませんが。

最後に、私のぞうきんの手へ。

これからも私と付き合っていくことになるけれど、汗はほどほどにしてほしい。私も前向きになるように努力するから。

（後書き）

同級生とは今でも友達です。大きな休みになると会いに行っています。

今大学生なのですが、大学で私が多汗症であるということを知っている友人はいません。

高校と違って、いつも会えると決まっていなかったからでしょうかね。就職することになればいやでもこの手と再び向き合わなければならぬと思います。手ばかりではなく、汗全体ですね。

自意識過剰といえそうなのでしょうけど、やはり人の目は怖いんです。意識すると言われるて意識しなくなるのであれば、こんなに悩まないと思っています。

どちらにせよ、こんな奴がいるのだと心の隅に覚えていてください。そして、好きで汗をかいているわけではありません。

あくまで私の意見ですが、もし汗のことを打ち明けた、逆に打ち明けられたのならば、それは打ち明けた人がその人を信頼している、理解してほしいと思っているからだと思います。

実際私も同級生たちに言っただけでよかったと思っています。心から友達であると言えます。

…出すぎたことを書いてすいません。

自分を変えなければ治らないとわかっているのですが、簡単にはいかないですね。

でも、このエッセイ（？）を書いていると少し気持ちが楽になったので良しとします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9826d/>

ぞうきんの手

2010年10月9日02時42分発行